

海外のアーカイブズ、企業アーカイブズ、日本のデジタルアーカイブ 年表 (2017年8月21日報告用) 作成：松崎裕子

西暦	海外のアーカイブズ/ICA関係	海外企業アーカイブズ/SBA (SBL) 関係	日本の企業アーカイブズ/BAA/渋沢財団 関係	日本のDA関係
1838	英国公文書館法 (Public Record Office Act)			
1869	英国 勅許状 (royal warrant) により王室歴史資料委員会 (Royal Commission on Historical Manuscripts = Historical Manuscripts Commission: HMC) 創設			
1899			森永西洋菓子製造所 (後の森永製菓) 創業	
1900			帝国興信社 (後の帝国データバンク) 創業	
1903			三井家修史事業のために日本橋駿河町の三井本館内に三井家編纂室設立	
1905		クルップ社アーカイブズ設立 (ドイツ)		
1906		ケルン地方経済アーカイブズ設立 (ドイツ)		
1907		ジーメンス社アーカイブズ (ドイツ)		
1920年代		スイス、オランダ、フランスで企業アーカイブズ誕生していく		
1927		ハーバード大学でビジネス・アーカイブズ・コレクション開始。(欧州では政府、各企業レベルのイニシアティブ、米国は大学に依拠する。)		
1934	米国 F・ルーズベルト大統領が国立公文書館法 (National Archives Act) に署名	ロンドンでビジネス・アーカイブズ・カウンシル (BAC) 結成		
1936	米国アーキビスト協会 (SAA) 結成			
1937			トヨタ自動車工業 (後のトヨタ自動車) 設立	
1942		デンマークAarhusに地方企業アーカイブズ (同国がスカンジナビア諸国をリードする)		
1945	英国 国立史料登録 (National Register of Archives) 制度開始			
1948	パリでICA設立 (6/9)			
1950	第1回大会開催 この時から大会でビジネスアーカイブズに関して議論される			
1957		ドイツ・ビジネスアーキビスト協会結成		
冷戦期を通じて	政治体制の如何に関わらずアーカイブズへのアクセスの保障を求める。Guide to the Sources of the History of Nations出版 (全69巻、1958~84)			
1950~60年代	ICA大会でビジネスアーカイブズに関する課題とこれに関する協力の必要性が論じられる			
1960	第4回ストックホルム大会 Robert Marquant (Paris) アーカイブズと現代経済・社会研究に関して発表			
1964			経営史学会結成	
1965			財団法人三井文庫設立	
1968	第6回マドリッド大会 ビジネスアーカイブズの議題に関してICAと各国のアーカイブズ管理機関間の協力を強化するためのICA共同委員会創設勧告を議論		財団法人日本経営史研究所設立	
1969		米国アーキビスト協会 (SAA) ビジネス・アーカイブズ委員会 (BAC) が企業団体アーカイブズのディレクトリ第1版発行		

1970年代までに	ほとんどの植民地が独立、自前のアーカイブを持つように			
1970代	発展途上国におけるビジネスアーカイブズという新たな関心が高まる			
1971			(国立公文書館設置)	
1972			大日本印刷株式会社CDC事業部年史センター編「ねんりん」発行開始	
1974	ロンドンでの会議BACと共催。ビジネスアーカイブズに対する対応喫緊であることが明らかになる。Charles Thompson (London) を会長に、Ottfried Dascher (Dortmund) を事務局長とした暫定委員会がICAによって形成される。暫定委員会のミッションは1976年にワシントンDCで予定されている第8回大会に向けてのレポートを準備すること。			
1975		米国アーキビスト協会 (SAA) ビジネス・アーカイブズ委員会 (BAC) が企業団体アーカイブズのディレクトリ第2版発行		
1976	第8回ワシントン大会 暫定委員会がレポート提出。加盟国45か国にアンケート送付、30か国から回答、27か国がビジネスアーカイブズに関心。1970年代：10か国に経済関係アーキビストの協会あり、8か国にビジネスアーカイブズをテーマとした定期刊行物発行。ビジネスアーカイブズ (BA) 委員会設立	Ottfried Dascherを会長に、Hilda Coppejans-Desmedt (Belgium) を事務局長としてビジネスアーカイブズ委員会設立。メンバーはほかに、Finn H. Lauridsen (Denmark), Robert W. Lovett (USA), Claude Mentha (Switzerland), James W.H. Moore (Zambia), Kresimir Nemeth (Yugoslavia), Walerij Romanow (USSR), and Maurice Hamon (France)等。10人の正規メンバー、18人の通信メンバー。西欧15、東欧5、南北米3、アフリカ1、アジア2、豪/NZ2	専門図書館協議会関東地区協議会のなかに「社史グループ」結成 (6月)	
1977		BA委員会ドルトムント (ドイツ) でシンポジウム		
1978		BA委員会Gandでシンポジウム ビジネスアーカイブズの手引きBusiness Archives: Principles and Practice (167頁) 刊行		
1978~1988		SBL毎年Bulletin発行		
1979		BA委員会Aarhusでシンポジウム		
1980		BA委員会ロンドンでシンポジウム 米国SAAビジネス・アーカイブズ部会 (BAC) が企業団体アーカイブズ・ディレクトリ第3版刊行		
1981		BA委員会ウィーン会議「銀行史」	企業史料協議会 (BAA) 設立 設立発起人産業界15人	
1982		BA委員会パリ会議「記録管理」		
1983		BA委員会ヘルシンキ会議 「文書、電子情報の保存」 SBL最初の刊行物 Business Archives Studies on International Practices	BAA企業史料管理研究会で「海外におけるビジネス・アーキビストの養成について」講演 (井上如東大助教授、1月) BAA企業史料管理研究会・専門図書館協議会と共催でユネスコ公文書専門官エバンス博士講演会 (7月) BAA欧州企業博物館・アーカイブズ視察 (8/13-24) BAA企業史料管理研究会「ヨーロッパの産業博物館と企業史料館」 (9月)	
1984		BA委員会ボン会議 「研究とアーカイブズの関係」 Hilda Coppejans-Desmedt (Belgium) が会長、Anna Christina Ulfsparré (Sweden) が事務局長に。Anne van Camp (USA), Lesley Richmond (Scotland), Pirko Rastas (Finland), Brita Rikheim (Norway), and Teresa Tortella (Spain)らがメンバーとなり新しい展開。 インド、中国からの参加もあり、発展途上国における経済アーカイブズ保全の重要性が認識されてきた。		
1985		BA委員会フィレンツェ会議 「評価選別とドキュメンテーション戦略」 英国BACが企業アーカイブズのディレクトリ第1版刊行		
1986	ICA執行委員会、委員会から部会制度への移行を提案	BA委員会ストックホルム会議 「社会史との連携の確立」	BAA企業史料管理研究会「西独BFBS社アーカイブズについて」工藤章東大助教授 (1月) BAA企業史料管理研究会パーカー・ロンドン大教授「イギリスにおける企業史料と会社史」 (4月)	

1987		BA委員会マドリッド会議 「保存に関する各種タイプと産業化される前の商業関係書籍」 英国BACの企業アーカイブズ・ディレクトリ第2版刊行	BAA企業史料管理研究会 「ジューメンス史料館における文書管理について」 (3月?2月?) BAA企業史料管理研究会 「アメリカの公共図書館における企業内史料の保存と利用について」(7月)	
1988	パリ大会開催。BA委員会の終了と再組織化。SBLへ(8/23)	BA委員会パリ会議「経済アーカイブズにおけるニューメディアの利用」 結成時の10人に加え、27人の通信メンバー。アフリカ(チュニジア、ザイル、ジンバブエ)、アジア(タイ、中国、日本)を含む。 ブリュッセルでSBL設立。47名参加。 「労働アーカイブズ：必要性和プライオリティ」開催。		
1988	ICAのHandbookシリーズとしてSBLのAnna Christina Ulfsparré執筆の The Management of Business Records 発行			
1989			BAA米国企業博物館・アーカイブズ視察 (9/4-17)	情報処理学会「人文科学とコンピュータ」研究会 設立
1990		BA委員会事務局長であったスウェーデンのAnna Christina Ulfsparré部長に選出。 米国SAAビジネス・アーカイブズ部会(BAC)が企業団体アーカイブズ・ディレクトリ第3版刊行	BAA「アメリカにおける産業博物館活動の視察調査」報告会(11月)	
1991			中国国家档案局李向麗女史からBAAにコンタクト(1月) BAA中国航空档案館代表団受け入れ(6/6-19)	
1992		Anna Christina Ulfsparré部長に再選。任期4年。 スタバンガー(ノルウェー)でシンポジウム「石油産業と記録管理の挑戦」開催 英国BACの企業アーカイブズ・ディレクトリ第3版刊行	BAA第1次中国档案館視察団(4/18-5/2) 日中両国それぞれの企業史料管理をめぐる諸問題(北京) BAA中国档案館代表団受け入れ(11月)	
1993	北京でEASTICA(東アジア地域支部)設立		BAA中国档案学会第1次代表団受け入れ(11/8-21) 「中国文書管理OA化の基本理論」	
1994		シンポジウム「民間部門のアーキビストが直面する課題」	BAA第2次中国档案館視察団(4/17-27) ①日中両国の企業アーカイブズ、会社史編纂、会社史目録作成をめぐる諸問題(北京) ②日本の企業史料管理状況(上海) BAA中国档案館代表団受け入れ(10月)	
1995	英国 HMCがArchon(Archives on-line)リリース	ロシアで新たに民営化された企業の指導者向けアーカイブズ研修講座開催	BAA中国档案学会第2次代表団受け入れ(11/6-17) 「日中それぞれの企業内文書管理と企業史料団体活動」	
1996	Jaap Kloosterman(オランダ) 部長に選出。 事務局長Lesley Richmond(グラスゴー大学)が「西欧でのビジネスアーカイブズ概要」 Overview of Business Archives in Western Europe 刊行。 ICA北京大会(9/2-7)で「ビジネスアーカイブズの振興と労働史資料」セッション開催		BAA ICA北京大会にオブザーバー参加 BAA第3次中国档案館視察団(9/1-14) ①史料の保護、復元技術(西安) ②日中企業史料管理の事例(上海) BAA中国档案館代表団受け入れ(8月、11月)	デジタルアーカイブ推進協議会(JDAA)結成
1997		BA委員会 部会メンバー138名 SAAビジネス・アーカイブズ部会、企業団体アーカイブズ・ディレクトリのウェブ版をリリース 英国BACの企業アーカイブズ・ディレクトリ第4版刊行	BAA文書管理研究部会「研究者から見た英国の企業史料室活動」 (3月) BAA EASTICA加盟(10月) BAA中国档案学会第3次代表団受け入れ(12/1-12) 「企業档案活動の経営への寄与、日本企業の記録保存体制、専門機関内のデータベース検索システム」	
1998		BA委員会 英語によるニュースレター発刊、ウェブサイトとML立ち上げる	BAA「ICA英文ペーパーを読む小研究会」(1月~99/4) BAA第4次中国档案館視察団(4/19-5/2) ①日中企業史料管理の事例(北京) ②都市建設档案館について(昆明) BAA EASTICAセミナー(中国蘇州)参加(9月) BAA 日仏経営史会議公開セッション参加(12月)	「国立国会図書館電子図書館構想」策定
1999			森永製菓創業100周年 BAA EASTICA総会(香港)参加(11月)	「アジア歴史資料」インターネット提供閣議決定 (11/30)

2000	Henrik Fode (ノルウェー) 部会長に選出 (2002まで) ICAセピリア大会でSBL 4セッション 「ビジネスアーカイブズへのアクセス」「収集と評価選別」 「ビジネスアーカイブズ振興」「M&A」		帝国データバンク創業100周年 BAA中国档案学会第4次代表団受け入れ (3/29-4/7) 「史料、電子記録の評価理論」 BAA中国档案館代表団受け入れ (11月) BAA講演会 「日本企業アーカイブズと美術史研究」(米デューク大学ジェニファー・ワイゼン フェルド助教授) 開催 (7月) BAA ICAセピリア大会に参加	岐阜女子大学文化情報研究センター開設 (4月) 政府e-Japan構想発表
2001	ICAのレイキャビクCITRAにてLesley Richmond (グラスゴー大学、SBL事務局長) が 「企業資料保存に関わる挑戦」を特別セッションで報告。		BAA第5次中国档案館視察団 (9/9-21) ①史料管理の電子化、経営者伝記史料の保存・利用、企業集団史料の集中管理 (深圳) ②地域産業遺産の研究・保存、企業集団の史料管理 (綿竹)	文化芸術振興基本法施行 岐阜女子大学文学部文化情報メディア学科設置
2002		Hans Eyvind Naess (ノルウェー) 部会長に選出 (2010まで)	村橋勝子『社史の研究』(ダイヤモンド社、3月) BAA中国档案館代表団受け入れ (6月)	
2003				知的財産基本法施行 個人情報保護法成立
2004	ICAウィーン大会にてSBLが「ビジネスアーカイブズ国際比較」を発表		(日本アーカイブズ学会設立、4月) 公益財団法人渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター企業史料プロジェクト開始 (12月)	改正著作権法施行 文化遺産オンライン試験公開版
2005	ICAアブダビCITRAにて「グローバル化時代のアーカイブズ」セッションをSBL共催		BAA中国档案学会訪日代表団受け入れ (11/14~23)	デジタルアーカイブ推進協議会 (JDAA) 解散
2006	SAAがビジネスアーカイブズ調査			NPO法人日本デジタル・アーキビスト資格認定 機構発足
2007	日米アーカイブ・セミナー実行委員会、米国アーキビスト協会 主催・企画 「日米アーカイブ・セミナー」 (東京・東京大学、5/9-11)			
	ICAセミナー「電子時代における挑戦と解決」(中国広州、12/4-5)		BAA事務局移転 (6月)	
2008	クアラルンプール大会 (7/21-27) テーマ: 「アーカイブズ、ガバナ ンス、開発: 未来の社会を描く」	公開ワークショップ 「企業内リテンション (保管) の方針と実践: リテンション (保管) の指針、透明 性、そして標準化への可能性」 (ノルウェー・スタバンガー、6/16-17)	公益財団法人渋沢栄一記念財団実業史研究情報センターがメールマガジン「ビジ ネス・アーカイブズ通信」を創刊 (2/15) 産業文化博物館コンソーシアム (COMIC: CONSORTIUM OF MUSEUM FOR INDUSTRY AND CULTURE) 第1回開催 (5/20)	
2009		セミナー「変化の中のビジネスアーカイブズ」(ヘルシンキ、6/12) セミナー「ビジネスアーカイブズ: 実務の現況と課題」(インド・ブネー、12/7- 8)	(公文書等の管理に関する法律成立、7/1)	
2010		シンポジウム「会社の記憶、経営に奉仕するツール」(仏プロワ、5/26-27) Didier Bondue 部会長に選出 (2012まで) 2004年のビジネスアーカイブズ国際比較調査と2006年のSAA調査を基にビジ ネスアーカイブズに関する比較研究をウェブで公表。		
2011			(公文書等の管理に関する法律施行、4/1)	
	渋沢栄一記念財団、ICA/SBL、企業史料協議会共催: 国際シンポジウム「ビジネス・アーカイブズの価値」(東京・国際文化会館、5/11)			
2011			BAA創立30周年記念事業「ビジネス・アーカイブズフェア」 テーマ「ビジネスアーカイブズの未来と課題」 基調講演・上川陽子衆議院議員 (初代公文書管理担当大臣) 「残す、伝える、役立てる アーカイブズを社会の力に」 シンポジウムテーマ「知的経営資源としてのアーカイブズを考える」 (11/11) 開催	

2012		シンポジウム「絶えず心を配る…21世紀のビジネス・アーキスト」 (デンマーク・コペンハーゲン、4/16-17) SBLメンバー116名	トヨタ自動車創業75周年 第1回 ビジネスアーカイブズの日 テーマ「デジタルはビジネスアーカイブズの未来を拓くか？」 特別講演・渋沢雅英(公財)渋沢栄一記念財団理事長「『渋沢栄一伝記資料』デジタル化の意義」 特別講演・小出いすみ(公財)渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター長「『渋沢栄一伝記資料』のデジタル化」 基調講演・吉見俊哉 東京大学副学長・東京大学大学院教授 「知識循環型社会における現代日本文化資産のデジタル化—ビジネスアーカイブズへの提言のために—」 シンポジウムテーマ「デジタル時代のビジネスアーカイブズ」 (11/7)	
	ブリスベン大会(8/21-24) テーマ:「変化の風:持続可能性、信頼、アイデンティティ」 SBLセッション 「ビジネス・アーカイブズ:持続可能性、信頼、アイデンティティ」			
2013		SBLシンポジウム「危機、信頼性、そして会社史」(スイス・バーゼル、4/)	第2回ビジネスアーカイブズの日 テーマ「身の丈で取り組む企業アーカイブズ」 特別講演・加藤丈夫独立行政法人国立公文書館館長 「企業が語り継ぐもの」 基調講演・佐藤政則麗澤大学大学院教授 「社風に応じたアーカイブズとは?担当1名、しかも兼任、それでも可能なアーカイブズ」 シンポジウムテーマ「身の丈で取り組む企業アーカイブズ」 (11/5)	
2014		SBLシンポジウム「工場からフェイスブックへ:ビジネス・アーカイブズに関わる新たな方法」(イギリス・ロンドン、4/14-15)	第3回ビジネスアーカイブズの日 テーマ「社史からアーカイブズへ」 特別講演・小島潔 株式会社岩波書店常務取締役 「社史を生かす:『物語 岩波百年史』の経験から」 基調講演・大島久幸高千穂大学経営学部教授 「社史からアーカイブズへ:社史編纂から企業アーカイブズの構築へ」 シンポジウムテーマ「社史編纂から企業アーカイブズの構築へ」 (11/5)	
2015		SBAシンポジウム「最良のビジネス・アーカイブズを作り上げる:投資に対し望ましい利益を得る」(イタリア・ミラノ、6/15-16)	第4回ビジネスアーカイブズの日 テーマ「ビジネスアーカイブズと情報発信」 特別講演・波多野澄雄アジア歴史資料センターセンター長 「終戦と史料の行方」 基調講演・高野明彦国立情報学研究所コンテンツ科学研究系教授、東京大学大学院情報理工学系研究科教授「ビジネスアーカイブズと情報発信」 シンポジウムテーマ「デジタル時代におけるビジネスアーカイブズ」 (11/5)	
2016		SBAシンポジウム「サステナビリティ」(米国・アトランタ、4/4-5)	第5回ビジネスアーカイブズの日 テーマ「資料をつくる、史料を残す」 特別講演・山田太一(脚本家) 「脚本アーカイブズ体験」 基調講演・山本 唯人(社会学者、青山学院女子短期大学助教、東京大空襲・戦災資料センター主任研究員)「人が語る。資料をつくる—記憶を伝えるために—」 シンポジウムテーマ「人が語る。資料をつくる—記憶を伝えるために—」 (11/8)	
	ICAソウル大会(9月) テーマ:「アーカイブズ、調和、友情」			
2017		SBAシンポジウム「ビジネス・アーカイブズの未来の役割」(スウェーデン・ストックホルム、4/5-6) SBAシンポジウム「記憶、アイデンティティ、企業アーカイブズ:ブランド・アイデンティティを構築し、未来を導くビジネス・アーカイブズの役割」(インド・ムンバイ、12/5-6)	産業文化博物館コンソーシアム(COMIC)第55回開催(7/13) 第6回ビジネスアーカイブズの日(11/7)	デジタルアーカイブ学会設立(4月)